

教材3-1(1)

言葉

年

組

番

名前

一次の文の主語としてふさわしいものを①から③までの中から一つ選んで、その番号をかきましよう。

① 庭に池があります。

② 森さんが今日の日直です。

③ かわいいひなが生まれました。

二次の文で、の言葉をくわしく表している言葉に**を引きましよう。

くじらが ゆうゆうと 泳いでいる。

あかちゃんが にここ わらっている。

小鳥が ピーピーと 鳴いている。

森の中は しーんとして しずかだった。

白い ねこが 歩いています。

かわいい 赤ちゃんが、よちよち 歩いています。

教材3-1(2)

言葉

年

組

番

名前

一次の文の「主語」「述語」を(れい)のように書き入れましよう。

主語

述語

(れい) わたしは、台所でおじいちゃんに手紙を書きました。

① 三年とうげとよばれるとうげがありました。

② 冬が、きつねの親子の住んでいる森にもやってきました。

③ 先生は、みんなに手話で気持ちを伝えました。

二 ***をくわしく表している言葉を□の中から選んで、()に入れましょう。

① () チューリップの花がさきました。

② () 荷物を運びました

③ だれもない () 教室になりました。

④ 朝の林に () 風がふいている。

⑤ みんなで () ゲームをする。

さびしい	赤い	さわやかな
楽しい	軽い	

年
組

番

名前

一 文の中で、いろいろに形をかえる言葉があります。
 国語じてんでは、ふつう、左①の でかこんだ形が、見出し語
 になっています。①〜③の見出し語を で囲みましょう。

① (例)

書かない
 書きます
 書く
 書くもの
 書けば
 書こう

①

青かるう
 青かった
 青くなる
 青い
 青い花
 青ければ

②

泳がない
 泳ぎます
 泳ぎたい
 泳げば
 泳ぐ
 泳ごう

③

しずかだるう
 しずかだった
 しずかに
 しずか
 しずかな
 しずかならば

二 次の言葉を、(れい)のような言い切りの形にしましょう。

(れい) 走った



走る

① 食べよう



② うれしかった



③ きれいだった



三 次の言葉を国語じてんに出ているじゅんにならべましょう。

すす

すす

すす

すす

すす









年

組

番

名前

「動きを表す言葉」「様子を表す言葉」「物や事を表す言葉」

〈れい〉



「動きを表す言葉」

「様子を表す言葉」

「物や事を表す言葉」

投げる

速い

野球

走る

強い

ボール

取る

楽しい

グローブ

打つ

うれしい

練習

一次の文の□には、どんな言葉が当てはまるでしょうか。下の□から選びましょう。そして、その言葉が、「動きを表す言葉」「様子を表す言葉」「物や事を表す言葉」のどれかを考え、()にアからウの記号を書きましょう。

① 問題答用紙に名前を□。()

② 今日は気温が□。()

③ 鳥が□をとぶ。()

④ □花がさく。()

⑤ □のしあいで負ける。()

⑥ □お店で本を□。()

⑦ □で地名を調べる。()

買う 高い 書く 美しい
大空 高い 書く 美しい
野球 高い 書く 美しい
日本地図 高い 書く 美しい

ア

「動きを表す言葉」

イ

「様子を表す言葉」

ウ

「物や事を表す言葉」

「物や事を表す言葉」

年

組

番

名前

文には、決まった言い方をする言葉があります。

へれい〜 ▼おそろく、．．．．．だろう。

▼なぜ、．．．．．なのだろう（なのか）。

▼きっと、．．．．．ちがいない。

▼まるで、．．．．．ようだ（みたいだ）。

一次の文の.....線の言葉に気をつけて（ ）の中に入る
言葉を の中からえらびましょう。

① どうして、おなかはへるの（ ）。

② あのビルの形は、まるで半月の（ ）。

③ まさか、わたしがゆう勝するとは思っても（ ）。

④ たとえ、遠くはなれて（ ）、また会えるだろう。

⑤ もし、雨がふった（ ）、遠足は中止です。

⑥ きっと、あの消しゴムは山田さんの物に（ ）。

い	い		
な	な	なら	よう
か	か	ば	だ
っ	っ		
た	た		だ
			ら
い	い		
て	て		
も	も		ち
			が
			い
			な

年

組

番

名前

ことわざ

「急がば回れ」「わらう門には福来たる」など、生きていく上でのちえや教えを、短い言葉や言い回しで表したものだ。

故事成語

「五十歩百歩」など。ことわざに似た短い言葉。中国につたわる古い出来事や物語がもとになっている。

慣用句

「ねこの手もかりたい」「道草を食う」などのように、二つ以上の言葉が結びついて、もとの言葉の意味とはちがう新しい意味を表す言い方。

一 次の言葉の意味にあうものを――でつなぎましょう。

ねこのひたい	●	気が合うこと。
馬が合う	●	よいことは、あれこれとなやむより、すぐに行くほうがよい。
さるも木から落ちる	●	苦ろうする。
善(ぜん)は急げ	●	たいへんせまい場所のたとえ。
ほねがおれる	●	かちの分からない人にかちのあるものを与えても何の役にも立たないことのたとえ。
ねこにこばん	●	名人や達人 <small>たつじん</small> と呼ばれるような者であっても、しっばいすることがあるということ。

教材3-1(7)

言葉

年

組

番

名前

一 一 一 の言葉の正しい方を ○ でかこみましょう。

① 入り口に、くつがある。
その それ
くつはわたしのです。

② 遠くに見える
この あの
山が大山です。

③ 暑いから
この どの
水とうを持って行きなさい。

④ きノウ、あなたが持っていた
その あれ
をかしてください。

⑤ 箱の中から
それ どれ
でもほしい物を取りなさい。

⑥ かさが見つからない。
これ あれ
はどこにおいたのだろう。

⑦ 明日は畑にいけます。
そこ あれ
で草かりをします。

⑧ 山の向こうに家があります。
これ それ
が私の家です。

年

組

番

名前

一 ***の言葉が指している言葉に、***を引きましよう。

⑦例 バスが来た。それは、駅前行きだった。

① お茶しか売ってっていない。飲める物はそれだけだ。

② パンフレットがあるから、買う物は、これを見てたのもう。

③ きノウ、ペンを買った。あれはとても書きやすかった。

④ 大山へ遠足に行った。その見晴らしは、すばらしかった。

⑤ 水族館に行きました。それは駅の近くでした。

⑥ 会場に白い服を着たおじいさんがいました。それが私のおじいさんです。

⑦ 庭にチューリップの花がさきました。その花はきれいでした。